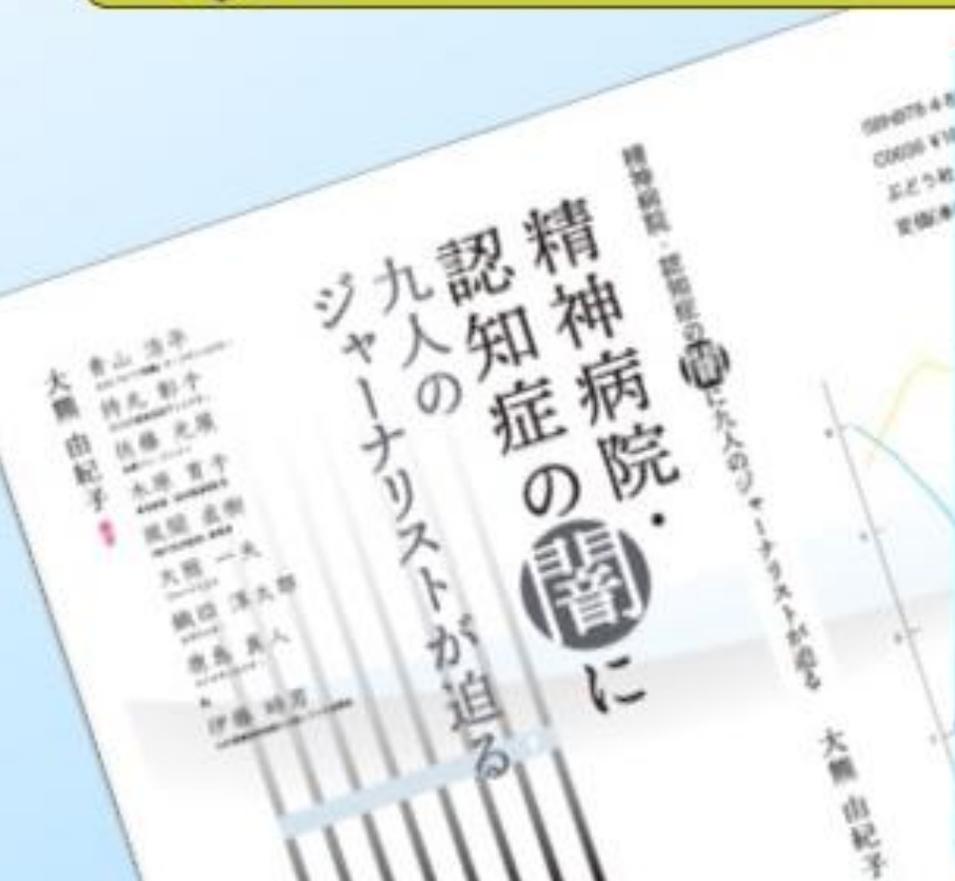




去年の **えにし**の会'23 から **本**ができました



垣根を跳びこえる、さらなる挑戦!!!!!!!

垣根を跳びこえるさらなる挑戦・その1

読売新聞を飛び出した佐藤光展さんが副校長として、「ひきこもっていいとも」前売り完売。俳優さんが、病状も名前も写真も公開するOUTBACKアクターズスクール

「バラエティショー ひきこもっていいとも！」

昭和、平成の時代に流行ったテレビ番組をパロディ化し、「ひきこもり」をテーマにしたバラエティショーです。OUTBACKメンバーの「ひきこもり」についてのエピソードをもとに、トーク、ゲーム、歌など、さまざまなかたちで表現します。



ともみん 2期生
脳こうそくサバイバー
好きなものがわからなくなっても大丈夫です。考えすぎないでゆきましょう。



りょうちゃん 3期生
うつ病
昨年の経験を活かし、楽しく、気持ちよく、かっこよく? ていうか充実した時間を過ごします。



マルティネス 1期生
統合失調症
前は苦手で。戯曲家に早くなるように、「黒子の衣巻はないですが」とにかく裏方で頑張りたい。



のぺ 3期生
かたまひ、失語症
今年2月、サルデーが亡くなりました。その後メンバーと再会した時、マミコさんが「椅子一つ足りないね」と言いました。サルデーがそこにいるような気がしたのはこのだけの秘密です。サルデー、見守ってね!



まり 1期生
統合失調症
あんまり、ぐずぐず病で練習できなかったけど、楽しくやりたいです。



あさびよん 1期生
統合失調症
3回目のステージです。今回は朝子の部屋の司会を務めます。徹子さんには及びませんが、まともめられるよう頑張ります。



やまね 4期生
発達障害、双極性障害II型、解離性障害、C-PTSD (まだ未定)
3回目の出演ですが、スクール生としては初舞台です。まっとう推しができると思います。楽しんで頂けると嬉しいです。



あやみ 1期生
統合失調症
4回目の舞台です。ダンスに歌、頑張ります。元気に踊りたいので、皆さん、応援よろしくお願いします。



くー 1期生
不安神経症、統合失調症
今年排拒困難を乗り越えて、この舞台に立っています(^_^)



シェーン 2期生
統合失調症
統合の舞台は、歌あり、踊りあり。僕が過去に書いた詩のコーナーもあるらしい。楽しんで今回のバラエティショーに参加するので、詩のコーナーも楽しんでね。



もとちゃん 1期生
統合失調症
杖をついての参加ですが頑張ります。



カズちゃん 4期生
複讎性PTSD
自分の中にあるどんな面も、私が恥じて置いてきぼりにしてしまったら可哀想じゃないかと思えるようになりました。OUTBACKのメンバーやスタッフの皆さんから勇気ももらって、今回参加させて頂けることをとても幸せに思います。

「愛と変容についてのラップバトル最新ver」

心の病を経て、ぶつかったこと、向き合ってきたことをラップとシーンで構成した「ラップ演劇」。昨年、松山と横浜で上演した作品をリメイクし、この夏、京都と神戸で上演した作品、さらにパワーアップした最新バージョンです。



にくにく 1期生
鬱、統合失調症、アルコール依存症
1期生として4回目の舞台です。今年の夏の京都・神戸公演のように、おもいっきり楽しんで頂きたいと思います。



サシくん 1期生
統合失調症
明るく元気で過ごしたい。



くちゅ 1期生
うつ病、パニック障害、摂食障害、器形恐怖症、睡眠障害
昨年の舞台に続きラップバトルを繰り広げます。今年の夏の京都、神戸公演を経て、横浜で更に盛り上がりです! 私が抱えている器形恐怖症の事もひとりでも多くの方に理解して欲しいです。



ドニー 1期生
うつ
今回は自分のラップに苦しみ。本番で上手いと思ったら、もちろん儲けて帰ります (笑)



さっちゃん 3期生
うつ、自傷神経失調症
いっぱい笑って、いっぱい泣いて、悩まなくて、みんなが話して、食べて飲んで、移動して、演じて過ごした大切な日々。お客様にも何か伝われば嬉しいです。



アラレ 3期生
アルコール依存症、摂食障害
言いたいことを言えない自分が、この劇をやっていく中で、変化していくところが面白いかな。



りっちゃん 3期生
新しい病院でADHD、ASDと書われました!
今年も無事に旅から帰ってきました。今日はOUTBACKメンバーみんなの素敵さ・カッコ良さ・可愛さなど、様々な魅力を楽しんで頂けたらと思います。たくさん笑ったり、ニコニコしてくれると嬉しいです!



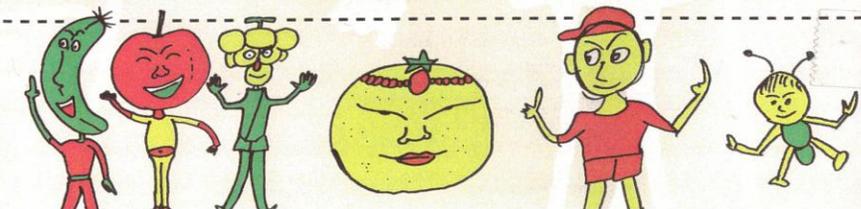
オカビー 3期生
うつ病
若い頃の傷を振り返りながら演じる。そこに納得のいく確実に歩んだ道がある。流した涙は1歩前へ進む道かもしれない。



シンさん 2期生
社交不安症
暖かいメンバーに見守られながら、自分のペースでポチポチ活動させて頂いています。

おしゃべりタイム「表現する、発信する、そして元気になる」

2人のゲストを迎えておしゃべりします。
1人は訪問看護ステーションを各地に展開されている精神科認定看護師の田邊友也さん。
もう1人は、2022年のOUTBACKアクターズスクールの活動を巡ったドキュメンタリー映画「わたしを演じる私たち」を撮影した飯田基晴さんです。



垣根を跳びこえる挑戦・その2

佐藤さん同様、朝日新聞を飛び出して、映画にも挑戦



祭壇にはフルーツや仏花が並び、一人の男性の遺影がこちらを向く。場面は切り替わり、男性が亡くなった精神科病院のカットへ。ナレーターとしての大熊さんの声が入った。

「大熊一也さんの両親にその時の状況を聞きました。息子の一也さんは精神的に調子を崩し、入院させました。当時40歳の一也さんは6日間、ベッドに縛り付けられ、拘束が解かれた翌日に亡くなりました」

映像が一瞬、横揺れした。ジャーナリストとしての怒りや悲しみが、その「揺れ」に表現されている。

「監獄」と無縁の人間らしい支え方

日本でもできると知って

かのようにも受け取れる。「うん、はい、はい」。

取材相手の言葉が生まれる道筋を少し先回りして地ならしするように、大熊さんの相づちがこだまする。

作品は4場面に分かれる。第1章は、2021年に「この身体拘束を指示した医師の裁量は違法」との最高裁判決を勝ち取った大熊さん家族の話。第2章は大熊さんがインタビューに答える形で精神医療の闇を激白し、第3章は「浦河へてるの家」（北海道）の取り組みを前面に。そして第4章で、地域から精神科病院をなくした町の事例か

ら、指すべら、大熊戦を選特報部身の工寸前だ、さて、ルギー案してんで分かつ活字とび込み映像作この世て無謀

87歳 伝説の潜入取材記者

精神医療の現在地を真っ正面から捉えた映画「脱・精神病院への道」が完成した。製作したジャーナリストの大熊一也さん(87)は半世紀以上前、アルコール依存症を装って病院に潜入取材し、著書「ルポ・精神病院」を世に送り出した伝説の記者だ。精神医療の「闇」を初めて世にさらした人物とも言える。今なぜ活字ではなく映像だったのか。後世に託したかった思いとは。(木原育子)



大熊一也さん(東)

知的障害者施設 潜入記

織田淳太郎

利用者との交流、
職員との対立、
日々募る違和感

——ひよんなことから施設で
働くようになった著者が見た現実

光文社新書

日常的な締め付け、
虐待
書類偽造による
「水増し請求」……
それでも肉親にとっては
「必要悪」か？

「障害者になりたくて
なったんじゃない！」

垣根を跳びこえろ。その3
織田淳太郎さんは知的障害者
に広げろ。